

**第 3 期さっぽろ未来創生プラン策定に伴う
社会動態に関する意識調査報告書**

令和 6 年 3 月 31 日

株式会社 DAZZLING

目次：

I 調査概要

1. 業務の目的	01
2. 実施内容	02

II 市内大学卒業予定者に対するアンケート調査/首都圏在住の道内出身者に対するアンケート調査

1. 調査の概要

(1)目的	02
(2)調査対象及び調査手法と回収サンプル数	02
(3)前回調査との比較について	02

2. 調査結果

(1)回答者の属性	03
(2)卒業後予定している進路	05
(3)就職活動時に参考としたメディア・媒体等	07
(4)就職先(転職先)について重要だと考えること	08
(5)就職先(転職先)検討にあたり、もっと知りたかった情報	09
(6)オンラインによるセミナー・企業説明会・面接に対する意識	10
(7)希望していた業種及び職種/実際に就職先(転職先)として決まった業種及び職種	11
(8)就職先(転職先)として希望する(した)勤務地	15
(9)道内での就職を希望する理由または UJ ターンを検討(希望)する理由	17
(10)道内企業の就職検討について	18
(11)将来、地元に戻る意思について	19
(12)U(I)J ターンにおいて障害だと感じるもの	20
(13)U(I)J ターンの支援策として必要と感じるもの	21
(14)U(I)J ターンの支援策としてあったら良いと思う取り組み	22
(15)U(I)J ターンを検討するために、企業・団体に取り組んでほしいこと	23
(16)U(I)J ターンをする場合の情報入手先について	24

3. 調査結果からの傾向

(1)トピックの整理	25
------------	----

III. 北海道 UJ ターン経験者就職・転職に関するグループインタビュー

1. グループインタビューの概要	27
2. 各議題のインタビュー内容	
議題1 UJ ターンによる就職(又は転職)をした動機や背景	28
議題2 UJ ターン転職・就職をして良かったこと	31

議題3	U J ターン転職・就職活動をして大変だと感じたこと	34
-----	----------------------------	----

議題4	自身の経験を通し、こういったサポートがあれば助かったと思うことはあるか	38
-----	-------------------------------------	----

IV. 課題点の整理と施策案

1.	調査結果から絞られた課題点と解消策(案)	42
----	----------------------	----

2. その他個別の課題解消施策案

(1)	U J ターン促進のタイミング	43
-----	-----------------	----

(2)	U J ターン促進手段の検討	44
-----	----------------	----

(3)	他都市の施策事例	46
-----	----------	----

Ⅰ．業務の概要

1. 業務の目的

札幌市では、男女ともに道外に対し転出超過となっており、特に若者の転出が顕著である。また、市内企業に対する調査では、事業を行っていくうえでの課題は人手不足となっており、これらの課題解決のためにも若年層の定着・還流策を講じるなど、札幌で活躍することを望む若者の希望がかなうまちづくりを積極的に行っていくことが必要である。

そこで、本調査は若者の地元定着やUターン就職（将来を含む）を現状以上に促進するために、働きかけを行うべき主たる対象者の属性やその考え方、道内での就職に向けた条件、対象者への効果的なアプローチの方法などの把握を目的として実施した。

2. 実施内容

・市内大学卒業予定者に対するアンケート調査

○市内大学の卒業予定者の、就職希望・予定地、就職にあたっての条件などについて定量的に把握するために札幌市内の大学に通う大学3・4年生、大学院修士課程2年生、短期大学生を対象として実施した。

○札幌市内各大学の協力をいただきインターネットアンケート調査を行った結果、507件の回収サンプルを得た。

・首都圏在住の道内出身者に対するアンケート調査

○道内出身者で現在首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)に在住している18歳～39歳の社会人を対象として実施した。

○インターネットアンケート調査を行った結果、500件の回収サンプルを得た。

・UJターン経験者へのグループインタビュー調査

○現在札幌市近郊の企業へUJターンによる就職(又は転職)を行った39歳までの若年層を対象に、UJターンきっかけや、就職・転職に関して具体的にどのような苦労があったか、どのようなサポートが必要と感じたのかなどグループインタビューを実施した。

Ⅱ. 市内大学卒業予定者に対するアンケート調査/首都圏在住の道内出身者に対するアンケート調査

1. 調査の概要

(1) 目的

市内大学卒業予定者の、就職希望・予定地、就職にあたっての条件などについて定量的に把握することと、首都圏在住の道内出身者の、就職希望または実際の就職先、就職にあたっての条件などについて定量的に把握することで、多角的に傾向を分析すること。

(2) 調査対象及び調査手法と回収サンプル数

◆札幌市内大学生アンケート調査

対象：札幌市内の大学に通う卒業見込みの大学生(大学3年生・4年生・大学院生・短大1年生・2年生)

実施期間：2023年12月25日～3月2日

実施方法：Web アンケート形式

回収サンプル数：507件

◆首都圏若年層アンケート調査

対象：道内出身者で現在首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)に在住している18歳～39歳の社会人

実施期間：2023年12月25日～2024年1月10日

実施方法：Web アンケート形式

回収サンプル数：500件

(3) 前回調査との比較について

◆札幌で活躍したい若者の希望がかなうまちづくりに係る調査(大学卒業予定者に対するアンケート調査)

※以下、「前回調査」という

対象：札幌市内の大学に通う大学3・4年生、大学院修士課程2年生

実施期間：2019年2月6日(水)～25日(月)

実施方法：インターネットアンケート調査

回収サンプル数：795件

2. 調査結果

調査結果の凡例

○＜SA＞ シングルアンサー（単一回答）

○＜MA＞ マルチアンサー（複数回答）

○N サンプル数

注記

○サンプル数N は、注記のない限り、非該当者（その設問に答える必要のない方）を除いた数であるため、回収数以下になる。

○マルチアンサー設問＜MA＞では、表記の割合の合計は100%を超える。

○シングルアンサー設問＜SA＞に関しても、表記の割合は選択肢ごとに少数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

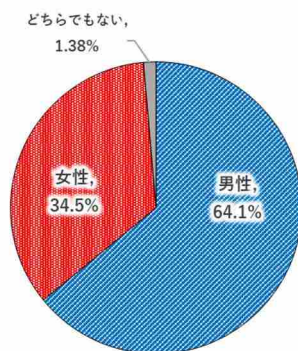
○ クロス集計軸として使用 クロス集計対象として使用 とある集計結果は、（括弧）に示す頁においてクロス集計（設問間をかけ合わせた集計）に用いている。

（1）回答者の属性

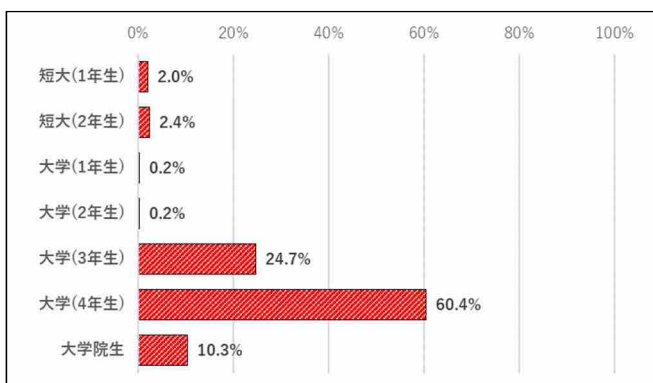
◆札幌市内大学生アンケート調査

性別＜SA＞（N=507）

クロス集計軸として使用



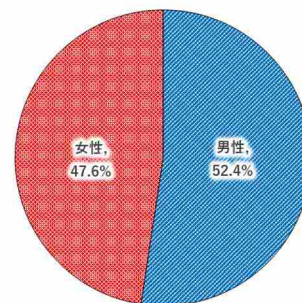
現在所属する学校及び学年＜SA＞（N=507）



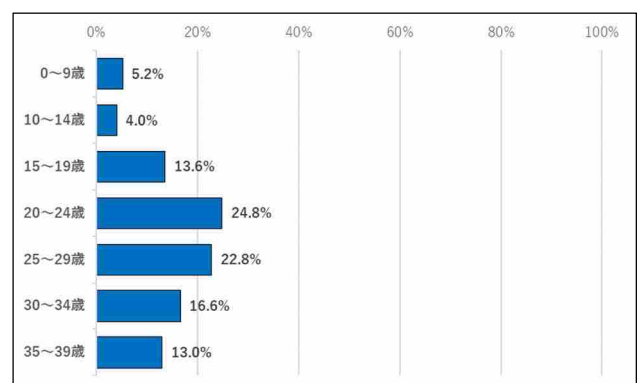
◆首都圏若年層アンケート調査

性別＜SA＞（N=500）

クロス集計軸として使用

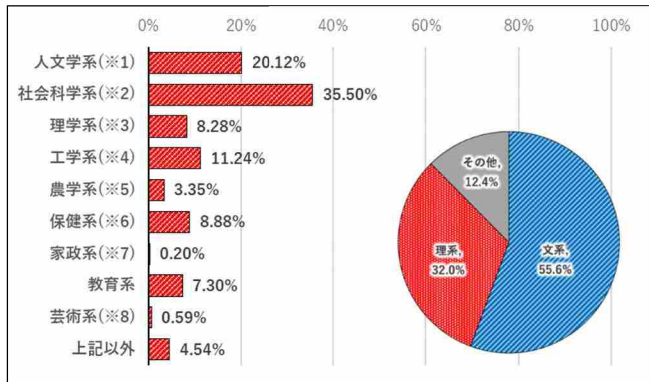


現在の年齢＜SA＞（N=500）



所属する学部・専攻<SA> (N=507)

クロス集計軸として使用



(※1)文学、史学、心理学等

(※2)法学、経済・経営学、商学、社会福祉学、観光学等

(※3)物理学、化学、生物学、地学等

(※4)機械工学、電気通信工学、土木・建築学等

(※5)農学、獣医学、水産学等

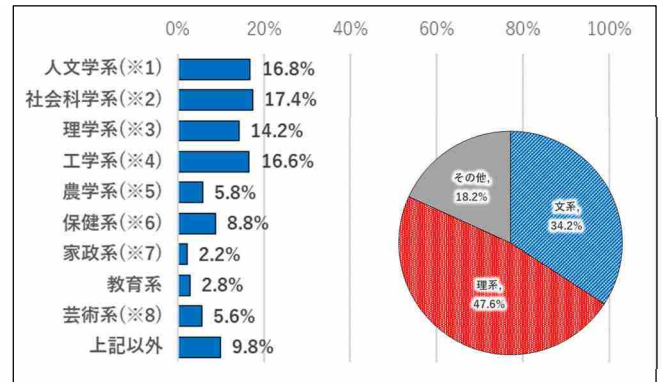
(※6)医学、薬学、看護学、医療工学等

(※7)栄養学等

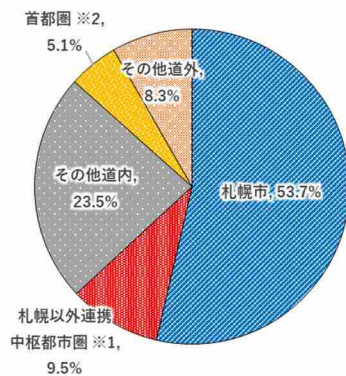
(※8)芸術学、デザイン学等

所属する(していた)学部・専攻<SA> (N=500)

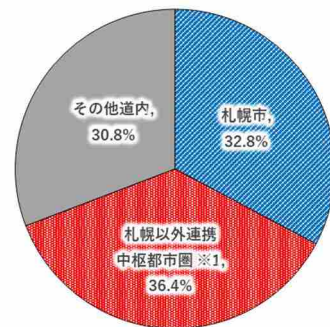
クロス集計軸として使用



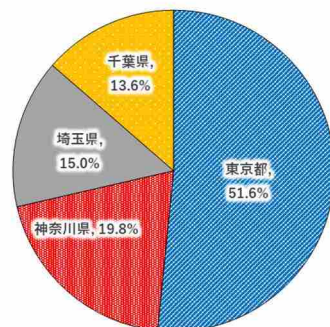
出身地<SA> (N=507)



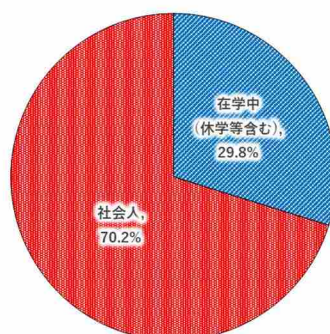
出身地<SA> (N=500)



現在在住の都道府県<SA> (N=500)

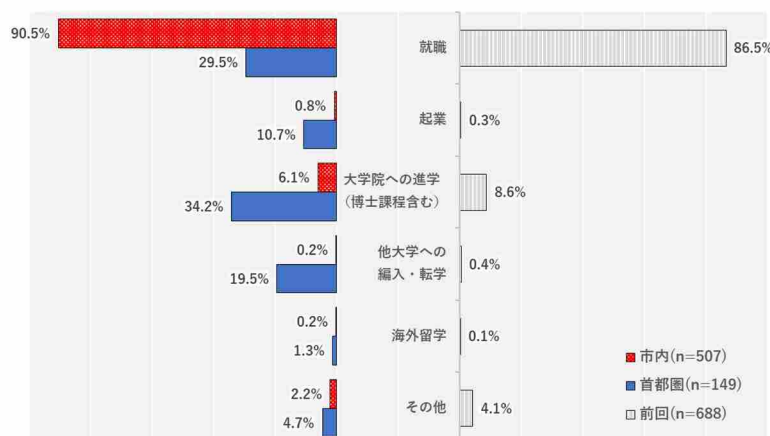


現在の社会属性<SA> (N=500)

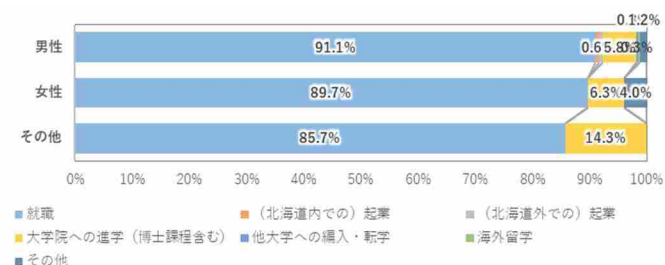


(2) 卒業後予定している進路

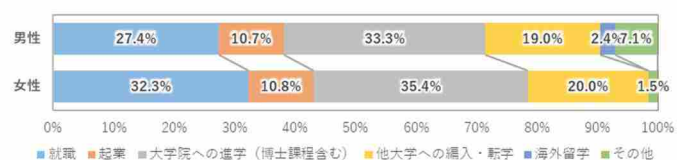
○卒業後予定している進路について札幌市内大学生と首都圏若年層と市内大学生に卒業後の進路について回答を求めたところ、札幌市内大学生は9割以上（前回調査 86.5%）が「就職」と回答したのに対し、首都圏若年層は、「大学院への進学（博士課程含む）」が1位となり、就職を選択した割合は2番目に多く29.5%という結果となった。首都圏若年層の回答で3番目に多かった回答は「他大学への編入・転学」であり、19.5%が希望していることが分かった。同設問で市内大学生は0.2%（前回調査 0.4%）、また、首都圏若年層では4位の「起業」も10.7%となっており、札幌市内大学生の0.4%に比べてとても多い。



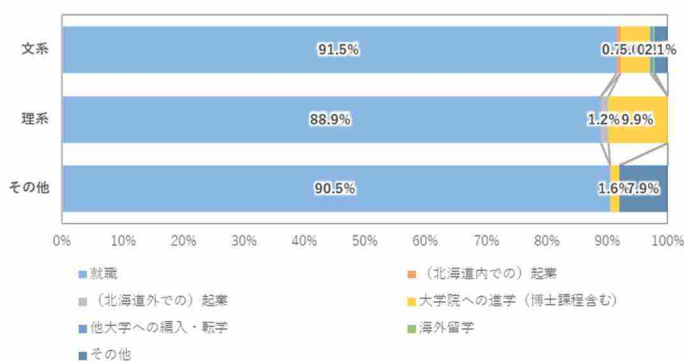
◆札幌市内大学生アンケート調査＜性別クロス＞



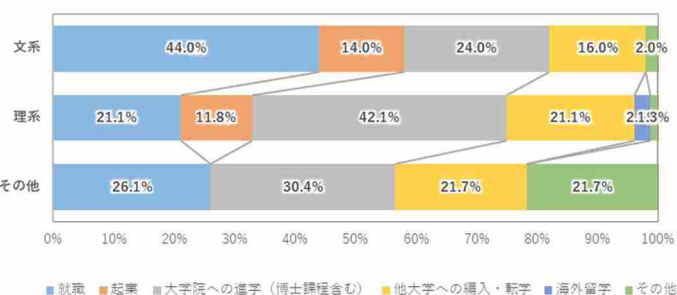
◆首都圏若年層アンケート調査＜性別クロス＞



◆札幌市内大学生アンケート調査＜学部クロス＞

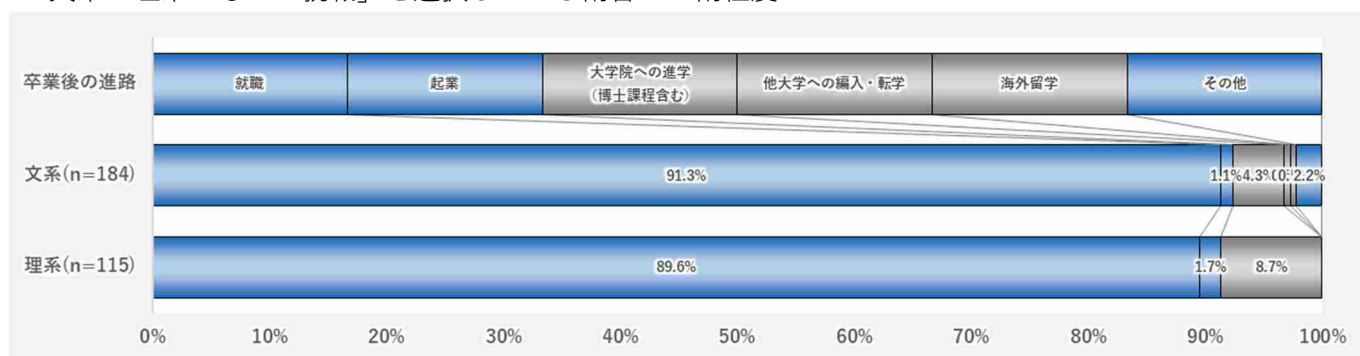


◆首都圏若年層アンケート調査＜学部クロス＞



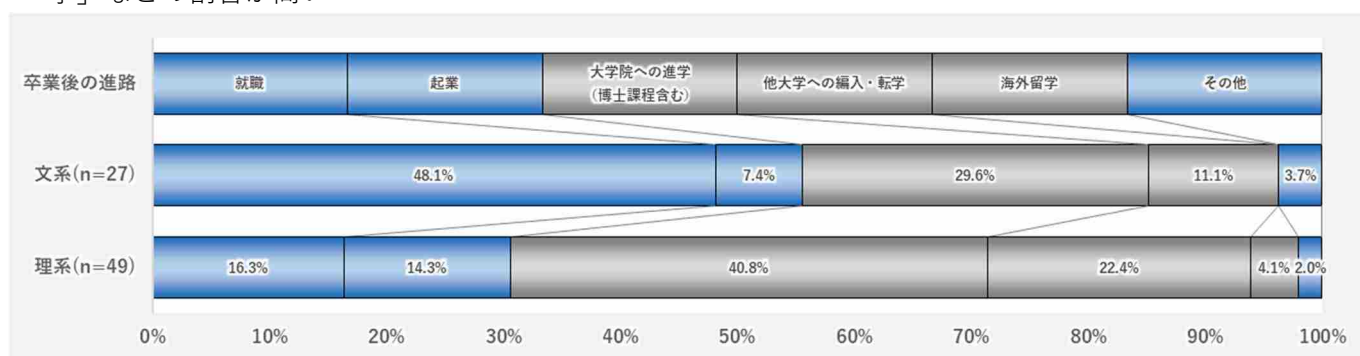
◆札幌市内大学生アンケート調査＜学部クロス/男性＞

文系・理系ともに「就職」を選択している割合が9割程度



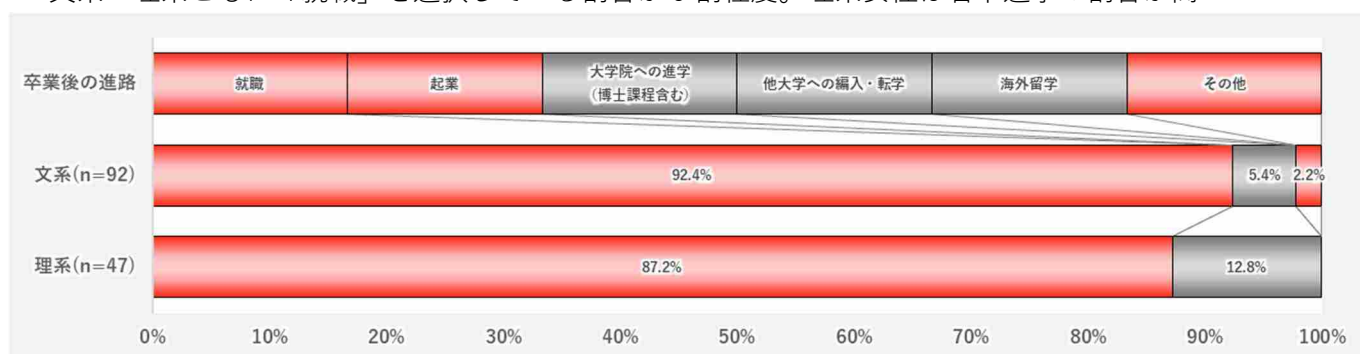
◆首都圏若年層アンケート調査＜学部クロス/男性＞

文系男性は理系男性に比べ、「就職」の割合が高いが、理系男性は「大学院への進学」「他大学への編入・転学」などの割合が高い



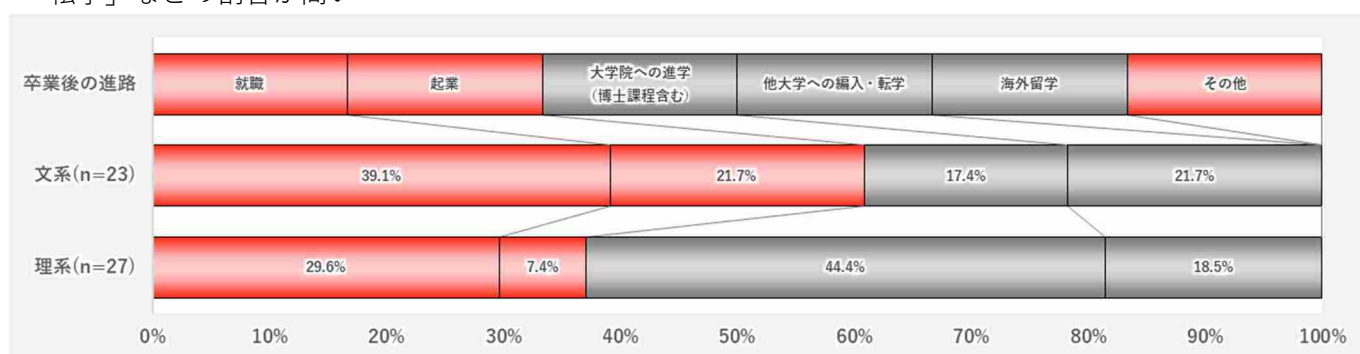
◆札幌市内大学生アンケート調査＜学部クロス/女性＞

文系・理系ともに「就職」を選択している割合が9割程度。理系女性は若干進学の割合が高い



◆首都圏若年層アンケート調査＜学部クロス/女性＞

文系女性は理系女性に比べ「就職」「起業」の割合が高く、理系女性は「大学院への進学」「他大学への編入・転学」などの割合が高い

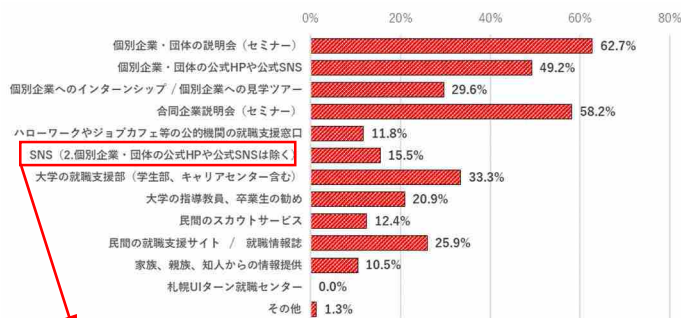


(3) 就職（もしくは転職）活動時に参考としたメディア・媒体等

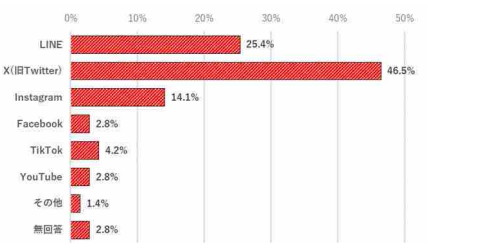
○就職活動時に参考としていたメディア・媒体等について札幌市内大学生と首都圏若年層に回答を求めたところ、どちらの調査でも「個別企業・団体の説明会（セミナー）」が1位に上がり、6割前後であった。ただし、札幌市内大学生では「合同企業説明会（セミナー）」が58.2%と高い割合で2位であるのに対して、首都圏若年層では、2位が「個別企業・団体の公式HPや公式SNS」で18.2%だった。札幌市内大学生は、「個別企業・団体の公式HPや公式SNS」も49.2%で3位となっている。首都圏若年層は、1位の「個別企業・団体の説明会（セミナー）」を圧倒的に参考にしていることが窺える。

◆札幌市内大学生アンケート調査

就職活動時に参考にしたメディア・媒体等<MA> (N=459)



どの SNS を最も使用したか<SA> (N=71)

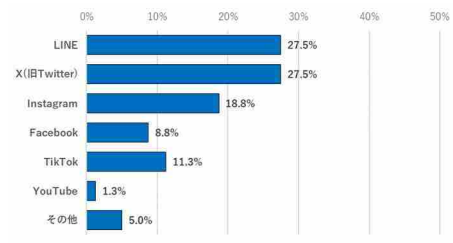


◆首都圏若年層アンケート調査

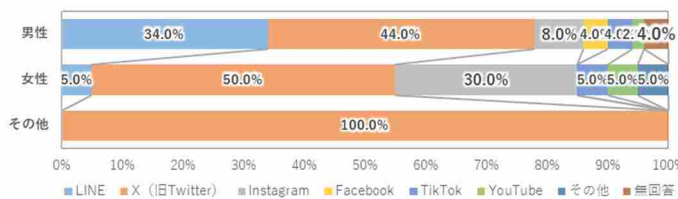
就職活動時に参考にしたメディア・媒体等<MA> (N=500)



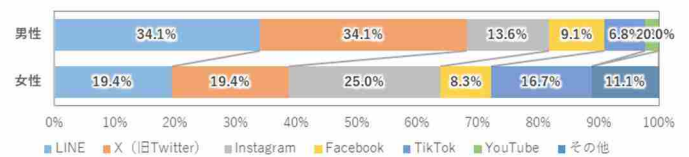
どの SNS を最も使用したか<SA> (N=80)



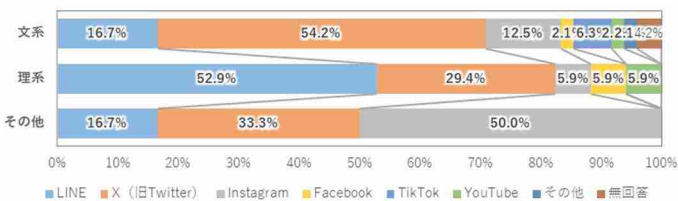
◆札幌市内大学生アンケート調査<性別クロス>



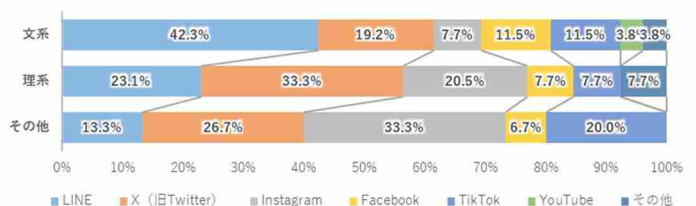
◆首都圏若年層アンケート調査<性別クロス>



◆札幌市内大学生アンケート調査<学部クロス>



◆首都圏若年層アンケート調査<学部クロス>



(4) 就職先（転職先）について重要だと考えること

○就職先（転職先）について重要だと考えることについて、札幌市内大学生と首都圏若年層に回答を求めたところ、1位はどちらの調査でも「賃金」であったが、札幌市内大学生が76.0%と高い割合を示しているのに対して、首都圏若年層は36.4%であった。また、2位はどちらも「福利厚生」であったが、札幌市内大学生が65.6%であるのに対して、首都圏若年層は27.2%と、それほど高くない割合を示している。3位が大きく異なり、札幌市内大学生は「職場の雰囲気」(47.9%)であるが、首都圏若年層は同率で「企業規模」(22.8%)、「自由時間・休暇が十分にとれること」(22.8%)であった。また、首都圏若年層で4位となっている「子育てしやすい勤務条件・環境」が、札幌市内大学生では15.9%であり、上位にもランクインしていない。札幌市内大学生の4位は「企業の安定性」であった。

就職先（転職先）について重要だと考えること<MA>

